

社会資本総合整備計画

最終提出日：平成26年1月31日

計画の名称					
備後・備北圏域の南北軸高速交通体系を活かした地域間交流・産業連携の強化					
計画の期間					
平成21年度 ～ 平成25年度（5年間）					
交付対象					
広島県，三原市，尾道市，世羅町，福山市，府中市，神石高原町，三次市，庄原市					
計画の目標					
<ul style="list-style-type: none"> ○ 南北軸高速交通体系を形成する中国横断自動車道尾道松江線・瀬戸内しまなみ海道等の高規格幹線道路を活かした交通網の形成により，広域的な地域間の交流・連携を強化し，観光振興などによる沿岸地域の活性化を促進する。 ○ 備後都市圏の都市機能の集積・強化を図り，周辺地域から福山市中心部へのアクセス性の向上，交通結節点の改善や交通の円滑化，物流の効率化により，都市圏の拠点性を強化する。 ○ 中山間地域におけるライフラインの強化など「安全」「安心」に向けた生活環境整備を行い，住みよい活気ある地域づくりを目指す。 ○ 中核市である福山市の交通の円滑化や安全性確保を促進し，快適で安心な地域づくりを支援する。 					
計画の成果目標(定量的指標)					
<ul style="list-style-type: none"> ○ 尾道松江線のICから30分以内の圏域人口を平成20年度末に比べ14,000人(H25)増加させる。 ○ 圏域内より出荷される日当り貨物輸送量を，平成20年度末に比べ10%(H25)増加させる。 ○ 備後都市圏中心部へのアクセスについて，平成20年度末に比べ100億円／年(H25)の走行時間短縮効果を発現させる。 ○ 各市町の中心医療施設まで30分以内のカバー人口を平成20年度末に比べ13,000人(H25)拡大させる。 ○ 中核市福山市における歩車分離を促進し，「人対車両」のkm当りの事故件数を平成20年度末に比べ9%(H25)減少させる。 					
定量的指標の定義及び算定式			アウトカム指標の現況値及び目標値		
			当初現況値		
			中間目標値		
			最終目標値		
			(H20末)		
			(H23末)		
			(H25末)		
尾道松江線のICから30分以内の圏域の拡大人口の増加人口を算出する。 (圏域の増加人口) = $\Sigma(\text{評価時点の各IC毎の30分以内圏域人口}) - \Sigma(\text{H20年度末の各IC毎の30分以内圏域人口})$			-	7,000人	14,000人
圏域内より出荷される1日当りの貨物輸送量の増加割合を算出する。 (1日当りの貨物輸送量の増加割合) = $\frac{(\text{評価時点の1日当りの貨物輸送量} - \text{H20年度の1日当りの貨物輸送量})}{\text{H20年度の1日当りの貨物輸送量}} \times 100$			-	5%	10%
各要素事業の整備による短縮時間を算出し，区間交通量及び時間価値原単位を乗じることにより走行時間短縮便益を算出する。 (走行時間短縮便益) = $\Sigma(\text{評価時点の各要素事業の短縮時間}) \times (\text{区間の交通量}) \times (\text{時間価値原単位} 45.78 \text{円/分} \cdot \text{台}) \times 365$			-	80億円	100億円
各市町毎に中心医療施設への30分以内到達人口の増加人口を算出する。 (30分以内の到達人口の増加) = $\Sigma(\text{評価時点の各市町の30分以内の到達人口}) - \text{H20年度末の各市町の30分以内の到達人口}$			-	7,000人	13,000人
福山市における「人対車」のkm当りの事故件数を求め，その減少割合を算出する。 (km当りの事故件数の減少割合) = $\frac{((\text{H20年度末のkm当り事故件数}) - (\text{評価時点のkm当り事故件数}))}{(\text{H20年度末のkm当り事故件数})} \times 100$			-	6%	9%